

令和7年度
佐賀県自主防災組織リーダー研修会
報告書

一般財団法人 日本防火・防災協会
佐賀県 危機管理防災課
多久市 防災安全課
神埼市 防災危機管理課

目 次

1	実施要領	．．．．．	P 2
2	日程表	．．．．．	P 4
3	概要	．．．．．	P 6
4	参加者名簿	．．．．．	P 11
5	アンケート結果	．．．．．	P 15
7	講義資料（板井幸則氏）	．．．．．	P 19

1 実施要領

令和7年度 佐賀県自主防災組織リーダー研修会 実施要領

1 目的

災害発生時において、被害の防止、軽減を図るには、自主防災組織や民間企業等による初期活動が重要である。

これら多様な主体に対する日頃のそなえの必要性を普及するため、防災に関する実践的な知識と技術を有し、地域における防災活動等の中心的役割を担う人材を育成する講座を開催し、防災力の強化を図るとともに本県における防災体制の充実を図り地域防災力の強化に資することを目的とする。

2 実施主体および後援等

共催 佐賀県

多久市、神崎市

一般財団法人 日本防火・防災協会

後援 総務省消防庁

3 実施日時・実施場所・参加予定者

(1) 日 時：令和7年11月8日（土）9時30分～16時00分
会 場：多久市立東原庁舎東部校
参加人数：多久市自主防災組織等の役員など 約50名

(2) 日 時：令和7年11月9日（日）9時30分～15時00分
会 場：協和町自治会館、（株）プレイスホーム
参加人数：協和町自主防災会の役員など 約60名

4 研修内容

別紙日程表

5 延期等の判断

次の(1)～(3)基準に基づき、県が研修の中止等の判断を行った場合は、研修会を中止する。

(1) 大雨、台風等

原則として以下の①～③の時点で判断を行う。なお、県内の海上に発令された暴風警報等については、判断基準の対象外とする。

① 研修前日(7日、8日)18時時点の判断基準

研修前日(7日、8日)17時に佐賀地方気象台から発表される早期注意情報において、研修当日(8日、9日)6時～24時に研修会場地域に警報級の可能性が「高」と発表されたとき、もしくは「中」が発表され、県が必要と認めたとき。

② 研修当日(8日、9日)朝5時時点の判断基準

研修当日(8日、9日)朝5時時点で既に研修会場地域に気象警報が発表されているとき。

③ 研修当日(8日、9日)朝5時以降の判断基準

研修当日(8日、9日)朝5時以降に研修会場地域に気象警報が発表されたとき。

(2) 地震

原則として以下の①～②の時点で判断を行う。

① 研修当日(8日、9日)朝5時時点の判断基準

研修当日(8日、9日)朝5時以前に研修会場地域に震度4以上を観測する地震が発生し、8日朝5時時点、または9日の5時時点で県が災害情報連絡室等の体制をとっているとき。

② 研修当日(8日、9日)朝5時以降の判断基準

研修当日(8日、9日)朝5時以降に研修会場地域に震度4以上を観測する地震が発生したとき。

(3) その他

危機事象(自然災害、感染症、家畜伝染症、国民保護、大規模事故等)が県内で発生し、県が必要と認めたときに判断を行う。

6 費用

受講料は無料とする。ただし、個人にかかる経費(講座にかかる交通費、駐車場代、宿泊費、食事代等)については受講者の負担とする。

7 交通手段

敷地内の駐車場(無料)を準備しているが、交通手段については、できるだけ公共交通機関を使用して各自開催場所まで向かうものとする。

8 問い合わせ先

佐賀県政策部危機管理・報道局危機管理防災課

災害対策・国民保護担当 岡村

TEL 0952-25-7362 FAX 0952-25-7262

E-mail kikikanribousai@pref.saga.lg.jp

2 日程表

○多久市

令和7年11月8日(土)

多久市立東原庁舎東部校

時 間	内 容
9:30	○受 付
10:00	○開 会 司会 佐賀県 危機管理防災課 ○オリエンテーション 佐賀県 危機管理防災課
10:05	○住民主体の避難所運営について(85分) ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏 ※休憩は適宜取得
11:30	<昼休憩> (90分)
13:00	○避難所運営訓練(事前説明) ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏 ※休憩は適宜取得
14:00	○避難所運営訓練(実践) ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏 ※休憩は適宜取得
15:30	○総括 ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏
15:50	○閉会 ○アンケート記入・記念品授与 ※記念品を受け取られた方から解散
16:00	<終 了>

○神崎市

令和7年11月9日(日)

協和町公民館・(株)プレースホーム

会場	時間	内容
協和町公民館	9:30	○受付
	10:00	○開会 司会 佐賀県 危機管理防災課 ○主催者あいさつ 神崎市 ○オリエンテーション 佐賀県 危機管理防災課
	10:05 (10分)	○協和町防災訓練 前回までのおさらい・振り返り ・神崎市 危機管理防災課 担当者
	10:15 (85分)	○住民主体の避難所運営について ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏 ※休憩は適宜取得
	11:40 (50分)	●プレースホームへの移動 ●昼食・昼休憩
(株)プレースホーム	12:30	○避難所運営訓練 ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏 ※休憩は適宜取得 ○総括 ・国立大学法人 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏
	14:40	質問タイム
	14:50	○閉会 ○アンケート記入・記念品授与 ※記念品を受け取られた方から解散
	15:00	<終了>

3 概要



令和7年度佐賀県自主防災組織リーダー研修会

佐賀県 政策部 危機管理・報道局 危機管理防災課

近年、日本中で大災害が発生しております。県内では、平成30年から令和3年まで4年連続で特別警報が発表されており、県民の防災に対する関心が高まっております。自主防災組織において、より災害時の実践的な研修会が求められている中、自主防災組織が主体となった避難所開設・運営訓練を行いました。自主防災組織が主導する事で、早期避難を行う事ができるため、より多くの県民が災害から身を守ることができます。

今回の研修は、11月8日（土）に多久市、11月9日（日）に神崎市でそれぞれ開催しました。研修では自主防災組織の会長や役員、各区の区長など、合計105名が参加しました。

多久市は佐賀県のほぼ中央部に位置し、四方を山に囲まれた盆地で、東と北は小城市小城市、佐賀市富士町、西と北は唐津市厳木町、相知町、南は、小城市牛津町、杵島郡江北町、大町町、西南は武雄市と接しています。天山、船山、鬼の鼻山等の本市をとりまく周囲の諸山から源を発する河川は、市の中央部を東西に貫く牛津川を主流として、南北より草木原、板屋、向谷、中通、今出、石原、別府の諸河川が合流して、東多久町納所をとり、小城市を経て六角川に注いでいます。これらの河川は、一般的に流路延長が短く、地形地質的にも条件が悪いため、特に牛津川に注ぐ河川は、降雨量の多い時期には洪水が発生しやすい地形です。

神崎市は、佐賀県の東部に位置し、東は神埼郡吉野ヶ里町及び三養基郡みやき町、北は脊振山地を隔てて福岡市、南は九州の大河、筑後川を挟んで福岡県久留米市、西は県都の佐賀市と隣接しています。山林・原野などが約66%を占めており、田畑が28%、住宅は全体の5%強であり、緑豊かな環境が広がっています。また、地形は、北は山麓部、南は平坦部、その中央部を城原川が貫流し南下しており、筑後川を経て有明海へと注いでいます。この城原川は、しばしば排水不良に起因した氾濫が発生する状況にあります。これは山地から平地に出し川床の傾斜が急変するところ、及び川幅が狭くなっているところ、或いは屈曲が多い場所などはいずれも堤防の決壊、溢水、氾濫の原因となっています。また、河川の排水機能は有明海の潮位の関係上常時開放して自然排水をすることが不可能であるため、平坦部においても、各河川の排水機能不良に起因する洪水や浸水が発生し常習的な災害を発生させています。

4 「避難と避難所について」 (大分大学 板井 幸則氏)

大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーターの板井氏による避難所運営について講義いただきました。板井氏が臼杵市消防本部に勤務されていた際、大分県緊急消防援助隊員として東日本大震災に派遣され、現地で実際に見られた避難所の現状や、令和6年能登半島地震の避難所環境調査を通して得られた気づきについて講演をされました。避難所には、私たちが想像することができないような物資や衛生環境、避難所での犯罪などの様々な課題があり、配慮や支援が必要な方々も避難してくるので、避難所運営を担う組織が効率よく運営することが大切であることを学んでもらいました。とくに、能登半島地震では避難所のトイレ問題が大きく取り上げられたこともあり、トイレの備えについてもお話がありました。

今回の研修会場は、実際に利用される避難所でもあるため、どのような避難所生活になるかのイメージをしながら研修を実施しました。避難所を効率よく運営するために重要なことは、ルールの設定と避難所のレイアウト（配置）、ゾーニング（区画分け）であることを学び、避難所生活の改善には、実際に避難する住民が主体となり運営する事が重要となることを体感する事ができました。

後半の避難所運営訓練実践編に向けて、避難所内レイアウト例を参考にしながら各個人で避難所設営のイメージをし、避難所運営の班分けと、それぞれの班が行う具体的な業務が示されました。

また、多久市開催では研修会場となった学校に設置している防災倉庫に整備する資器材について多久市防災安全課の職員から説明と実物を使って使用方法の確認があり、参加者からは数量やほかの避難所での整備状況についての質問が上がったり、職員に対し直接必要な資器材の要望等に関する声があがったりするなど、関心の高さをうかがえました。

11月8日（土）多久市 講義の風景



11月9日（日）神崎市 講義の風景



6 多久市午後「避難所運営訓練」 （大分大学 板井 幸則氏）

参加者が避難所を運営する自主防災組織のリーダーで、避難所を運営することになったという前提で演習を行いました。演習は研修受講者が避難所運営側と避難者側に分かれて行われ、両方を体験していただきました。

訓練は、次々と避難してくる避難者にどのように対応するかを検討するもので、様々な配慮が必要な方たちの配置を考えながら、避難所内へ案内してもらいました。避難所にやって来る方たちは、例えば、妊婦さんや、足が不自由な高齢者、言葉が通じない外国人の方などの役がありました。これらは過去の実際の災害で避難所に来られた避難者となっており、午前の講義で学んだレイアウトとゾーニングの重要性を学ぶことができる、実践に近い実習となりました。

避難所にテレビ取材が来た想定での対応の仕方や、被災地で実際に起きた犯罪などを未然に防ぐための安全・安心・快適な空間を確保できるよう、避難所運営訓練が必要である事について実習を通じ研修しました。

実践型の訓練を行う中で、午前中の講義で得た知識を積極的に活かそうとする受講者が多く、互いに意見し合いながら研修を進めることができました。

訓練終了後には、運営側各班の代表者から訓練を通しての感想を他の参加者に共有していただき、受付での対応が想像より難しかったことや、運営側の各班での情報共有を密に行うことの重要性を気づきとして共有していただきました。



6 神崎市午後「避難所運営訓練」 (大分大学 板井 幸則氏)

神崎市での午後の研修は、午前の研修会場（協和町自治会館）の近隣にある住宅展示場
で移動し、行いました。午前中の研修会場は内水氾濫が起こった過去があり住民同士で
避難所として使用することの不安があったため、住宅展示場を経営する民間企業に自治会
長、公民館長が神崎市とともに災害時に避難所として開放することを依頼し、承諾された
ことで住宅展示場での研修開催が実現されました。これまで、同住宅展示場を避難所とし
て使用した実績がない会場であったため、まずは住民同士で実際に避難が想定される地区
の住民を想定してレイアウトの検討を行いました。

また、地域住民だけでなく、急遽この避難所に避難することになった人、妊婦さんなど
が避難してきたときのことや、午前中の講義で学習したプライバシーへの配慮を行ったプ
ライベート空間の確保等様々な状況を想定したレイアウトの検討を行い、参加した地域住
民同士で共通認識を持つことで災害時にも地域で対応できるような研修にすることができ
ました。



研修会の課程終了後、参加者には記念品が贈られました。

今後、参加者が研修で学んだことを各地域の自主防災活動に活かしていただき、自主防災活動が充実強化され、研修の目的が達成されることを期待しています。



5 アンケート結果

令和7年11月8日 多久市

回答者	36名	研修会全体	43名
無回答者	7名	回答率	83.7%

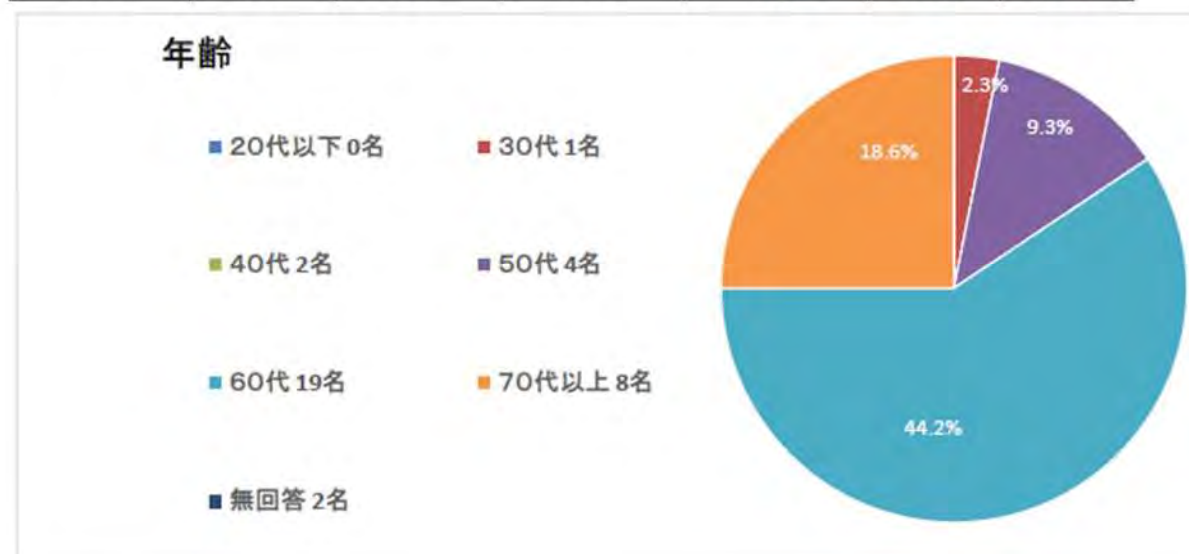
1 参加者の社会的立場(※複数回答可)

自主防役員	消防団員	地区役員 (区長等)	防火クラブ	公務員 (消防署員含む)	その他	無回答
5名	0名	26名	0名	3名	2名	0名
11.6%	0.0%	60.5%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%



2 参加者の年齢

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
0名	1名	2名	4名	19名	8名	2名
0.0%	2.3%	0.0%	9.3%	44.2%	18.6%	0.0%



3 研修全体の感想(各講義の合計)

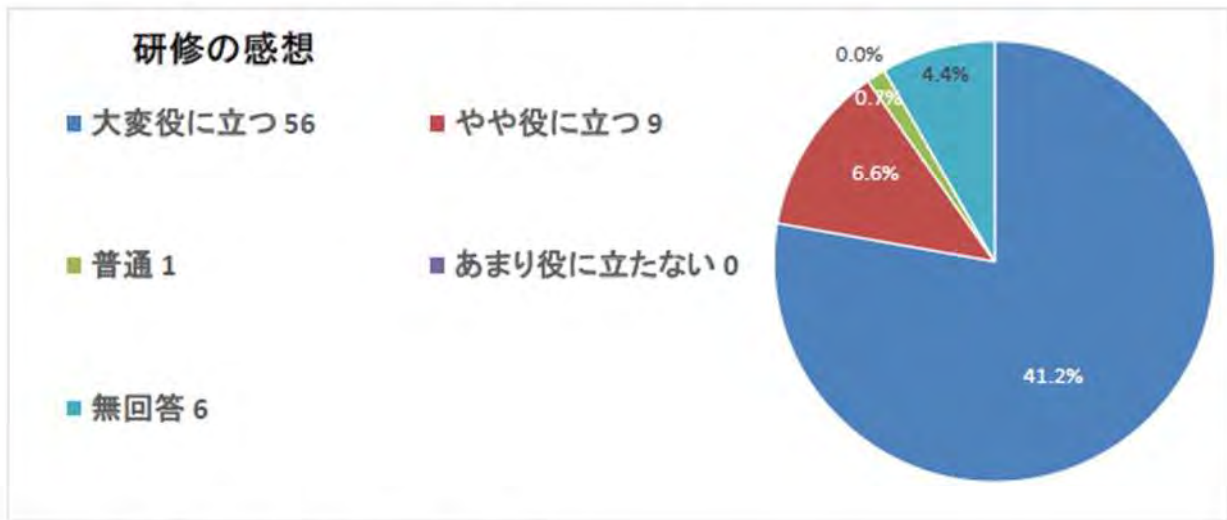
大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
56	9	1	0	6
41.2%	6.6%	0.7%	0.0%	4.4%

1)「避難と避難所」(大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏)

大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
30	3	1	0	2

2)「避難所運営訓練」(大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏)

大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
26	6	0	0	4

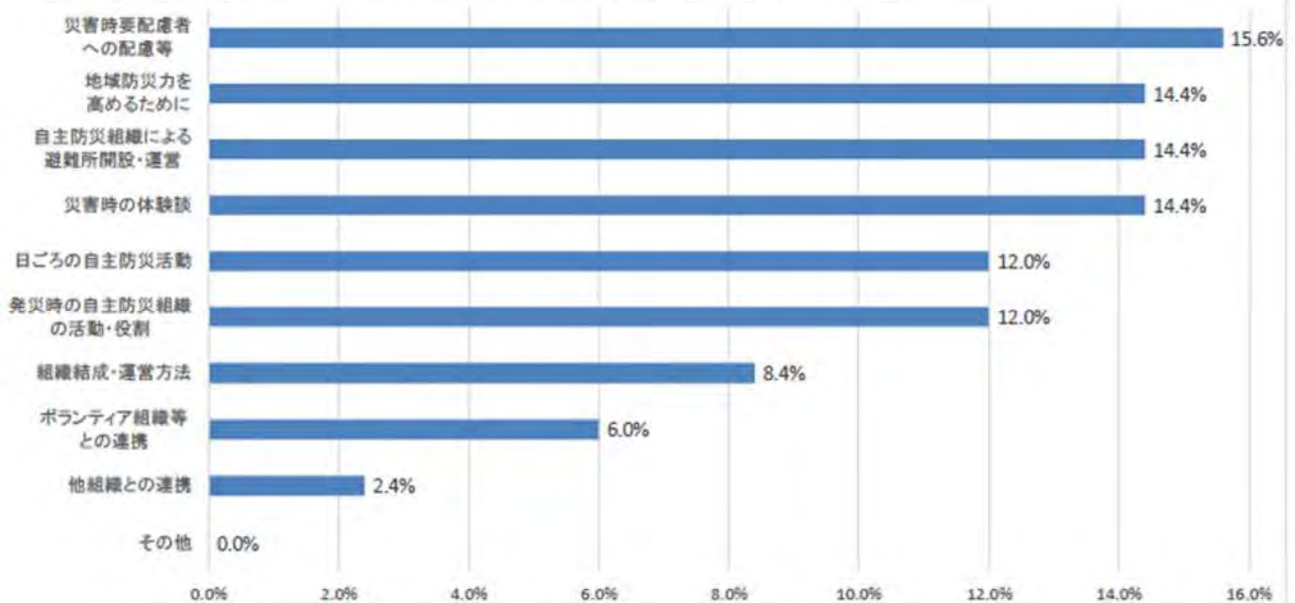


4 今後希望する研修内容(複数回答可)

組織結成・運営方法	災害発生時の自主防災組織の活動・役割	地域防災力を高めるために	災害時要配慮者への配慮等	日ごろの自主防災活動	他組織との連携	災害時の体験談	ボランティア組織等との連携	自主防災組織による避難所開設・運営	その他
7	10	12	13	10	2	12	5	12	0
8.4%	12.0%	14.4%	15.6%	12.0%	2.4%	14.4%	6.0%	14.4%	0.0%

今後希望する研修内容

研修受講者のうち、希望した人数の割合



5 アンケート結果

令和7年11月8日 多久市

回答者	36名	研修会全体	43名
無回答者	7名	回答率	83.7%

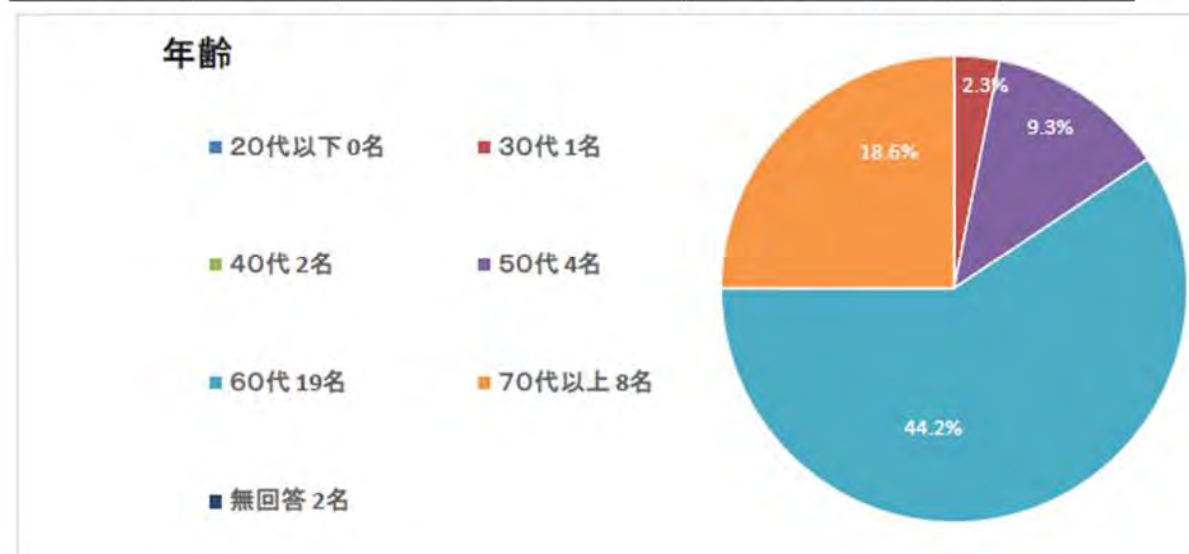
1 参加者の社会的立場(※複数回答可)

自主防役員	消防団員	地区役員 (区長等)	防火クラブ	公務員 (消防署員含む)	その他	無回答
5名	0名	26名	0名	3名	2名	0名
11.6%	0.0%	60.5%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%



2 参加者の年齢

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
0名	1名	2名	4名	19名	8名	2名
0.0%	2.3%	0.0%	9.3%	44.2%	18.6%	0.0%



3 研修全体の感想(各講義の合計)

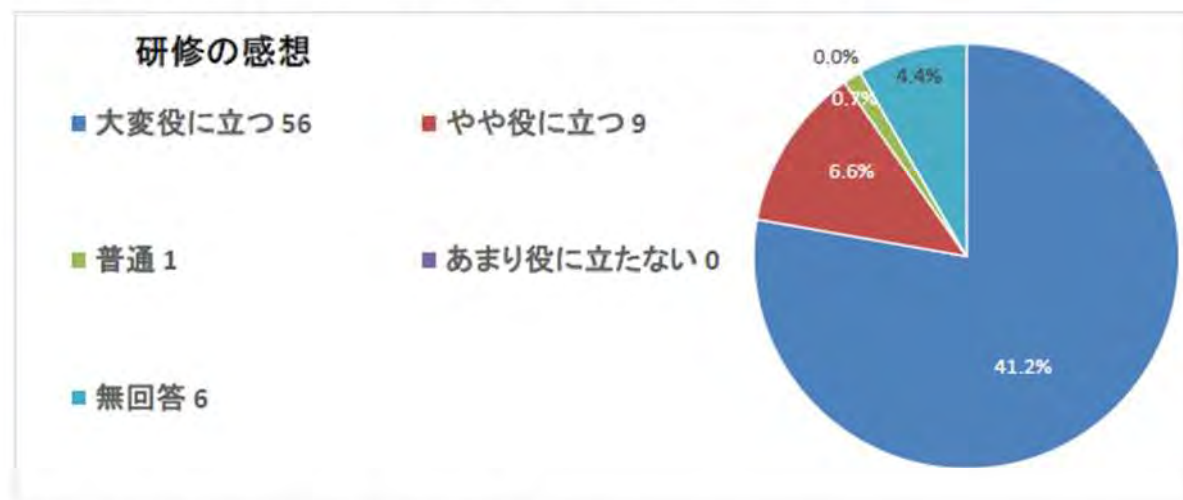
大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
56	9	1	0	6
41.2%	6.6%	0.7%	0.0%	4.4%

1)「避難と避難所」(大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏)

大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
30	3	1	0	2

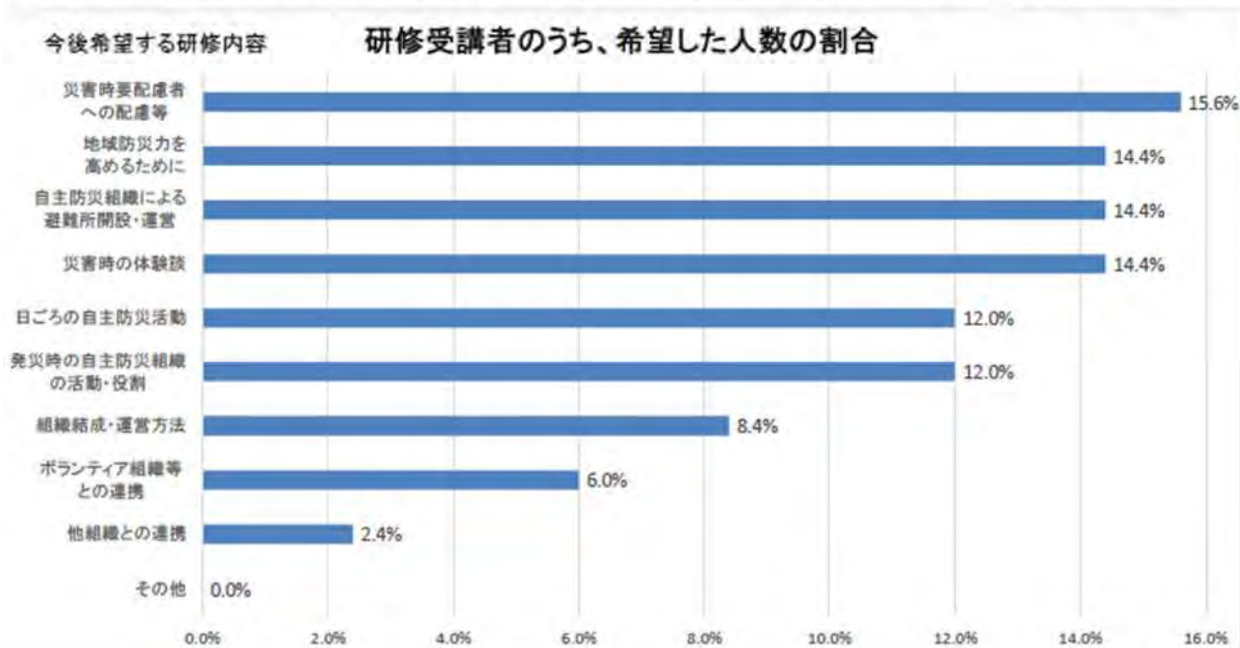
2)「避難所運営訓練」(大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター 板井 幸則 氏)

大変役に立つ	やや役に立つ	普通	あまり役に立たない	無回答
26	6	0	0	4



4 今後希望する研修内容(複数回答可)

組織結成・運営方法	災害発生時の自主防災組織の活動・役割	地域防災力を高めるために	災害時要配慮者への配慮等	日ごろの自主防災活動	他組織との連携	災害時の体験談	ボランティア組織等との連携	自主防災組織による避難所開設・運営	その他
7	10	12	13	10	2	12	5	12	0
8.4%	12.0%	14.4%	15.6%	12.0%	2.4%	14.4%	6.0%	14.4%	0.0%



令和7年度
佐賀県自主防災組織リーダー研修会
～住民主体の避難所運営について～



【イソップ童話 アリとキリギリス】



大分大学 CERD
客員教授
板井幸則

【プロフィール】

昭和59年 4月 臼杵市消防本部 臼杵市消防署に入署
救急・救助・消防と現場活動に従事

平成 7年10月 救急救命士試験に合格

～平成23年3月11日14時46分 東日本大震災発生～

平成23年 3月14日～22日 大分県緊急消防援助隊（臼杵隊隊長）

「釜石の奇跡」となった鶴住居小、釜石東中等で人命救助活動を行う

平成24年 4月～平成28年3月 臼杵市 総務部に出向

総務課 防災危機管理室（防災危機管理監兼室長）

平成28年 4月 臼杵市消防本部（次長兼署長）

平成29年 4月 臼杵市消防本部（消防長） ～ 平成30年 3月退職

平成30年 4月 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター（現在に至る）

- ・客員教授
- ・大分県学校防災アドバイザー
- ・大分県防災アドバイザー
- ・学校法人 おおぞら高等学校防災アドバイザー
- ・社会福法人 すみれこども園防災アドバイザー
- ・臼杵市 防災コンサルタント



1. 避難所運営について

(1) 令和6年能登半島地震を教訓として

(2) 避難所とは

(3) 演習

①避難所について考える

②避難所運営

令和6年能登半島地震



地震の概要

- ①令和6年1月1日16時10分
- ②震源及び規模
 - ・場所：石川県能登地方
 - ・規模：マグニチュード7.6
(最大震度 7)
 - ・震源の深さ：16km
- ③避難者数(1/2)
 - ・1次避難 40,688人



能登半島地震への災害調査

1回目 令和6年1月15日～20日

- ・目的 避難所調査
- ・場所 能登町、輪島市、穴水町

2回目 令和7年2月21日～26日

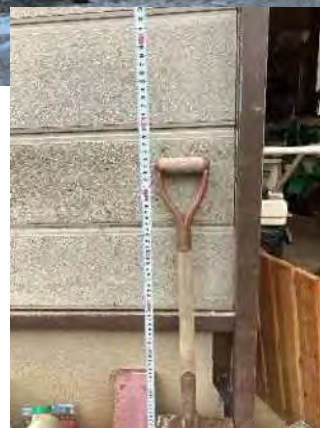
- ・目的 被災者へのヒアリング調査
- ・場所 能登町、輪島市、珠洲市

3回目 令和7年9月21日～24日

- ・目的 被災者への復興支援
- ・場所 能登町、輪島市



(能登町白丸) 津波と火災





復旧とは **ハード・物**

壊れたり、傷んだり、乱れたりしたものをもとの状態に戻すこと、または元の状態に戻ること。

復興とは **ソフト・心**

衰えたものが再び勢いを取り戻すこと、あるいは盛んにすること。



← 津波のため高台へ避難
(1月1日16時31分)



- ・津波のため高台で一晩、車中泊をした
- ・ **トイレは野糞**
※皆が知り合いであったので、
トイレは心配なくできた

写真提供：能登町の脊戸様

問題1 非常持ち出し品について

避難する際に、一つだけ持って避難するとした場合に、皆さん何を持って避難しますか？



避難者で炊き出し
(05時53分)

・年越しそばなどの残り物を入れて炊き出しを行った

高台で暖を取る
(22時40分)

・車で避難していたので
車中泊をした



災害用トイレの特徴と課題

トイレ
カー



★水洗で快適
※高価、到着まで時間がかかる

仮設
トイレ



★流通量が多い
※汲み取りが必要

マンホール
トイレ



★使用後が衛生的
※事前整備が必要

簡易
トイレ



★設置しやすい
※使用済み袋の処理

携帯
トイレ



★保管が省スペース
※使用済み袋の処理

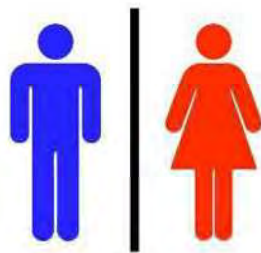
穴水町役場（屋外トイレ）



災害時の対応を学ぶ！



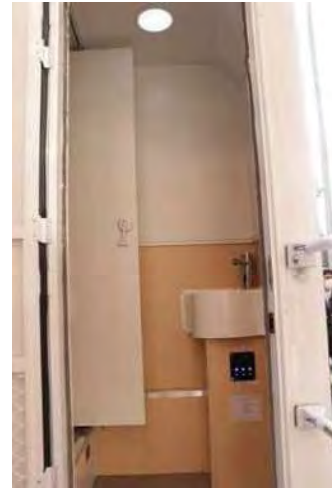
問題 2 ライフラインが寸断された場合、自宅で用を足す場合はどうする？



災害時に役立つ自宅での携帯トイレの使い方



トイレカー



避難所イベント

(1月5日20時27分)

- ・子供たちが中心となりダンスを披露した
- ※避難者が初めて笑顔になった
- ・物資の配給をしている時に、奪い合いが始まり、震災後初めて泣いた

避難所開設

(1月2日09時11分)

- ・家族ごとに間仕切りがあった
- ※帰省中の家族も一緒



避難所 (輪島市)



避難所 (輪島市)



避難所（輪島市）



命を守るT・K・B （災害関連死を防ぐ）

各地の避難所の問題点、改善の提案
（避難所運営マニュアル作成委員会）

T = トイレの課題
「汚い」「段差」「和式」

K = キッチンの課題
毎日、パンやおにぎり

B = ベッドの課題
床の雑魚寝が健康を害す

他にも健康に影響しかねない問題が...

「快適で十分な数のトイレ」「温かい食事」「簡易ベッド」の提供が必要

令和6年4月台湾地震での避難所



問題4 炊き出しはいつまで・・・？



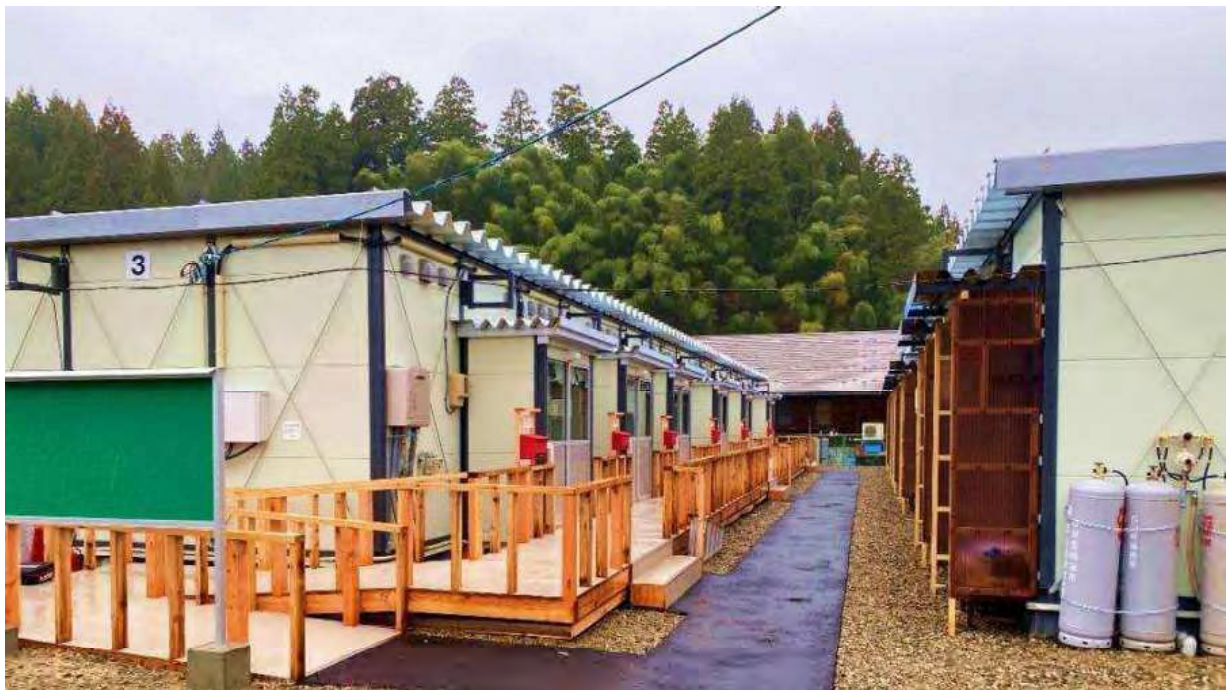
⇒ **仮設住宅**ができるまで
※炊き出しが長くなると、自立しなくなる
スーパーが開けば自立する

問題3 避難所から自宅に帰るのはいつ？



⇒避難者は**電気**が通じてから
※電気が通じれば避難所から家に帰る人が増える

応急仮設住宅





国立大学法人

大分大学

震災から復旧復興に向け

【震災～1週間】

避難所に行っても人が多く横になれない
 一口で言えば過酷⇒車中泊
 ※1週間振りに風呂に入り、そこで初めて泣いた！

【1週間～1か月】

女性の視点が避難所には必要
 能登は田舎なので、皆を知っている
 しかし、月日が経つにつれて不審者が出没
 ⇒トイレで盗撮
 綺麗なトイレが必要⇒トイレトレーラーが必要

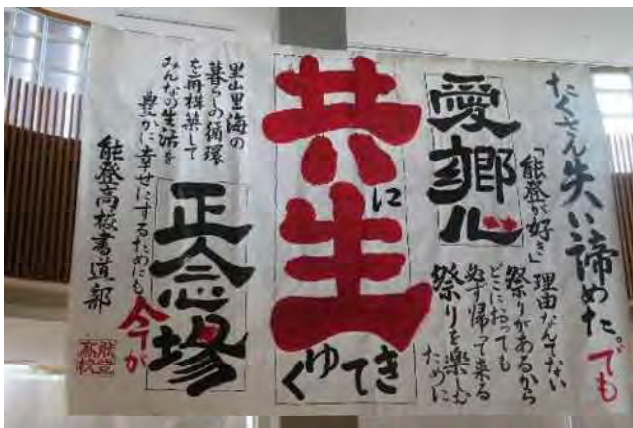


【復興に向け】

9月豪雨で何が復興だかわからなくなった
 災害時のオープンチャット（Line）は高齢者でも使える
 命を守る気持ちを持つことが大切
 復興は遅くない⇒被災者に寄り添った解体をしている



能登町役場でのヒアリング



令和6年能登半島地震による能登町の被害状況 (R7.8現在)

【人的被害】

死者 75名
行方不明者 0名
重症 32名
軽傷 25名

【避難者】

72避難所 5,481人 (1/4)
1.5次避難 170人
2次避難 745人

【火災】

場所 白丸地区
覚知 1月1日 22:16
死傷者 なし
焼損棟数 11棟

【家屋被害】住宅＋非住家

全壊 1,557棟
半壊 3,160棟



避難者数

- 1/4 避難所72か所、避難者5,481人 (町で把握できた数)
(その他集会所、自宅車庫、車中泊、ビニールハウス等で避難していた人多数)
- 1/9 避難者数2,637人 最大時の半数以下に
自衛隊入浴支援
- 1/16 段ボールベッド設置
- 1/31 避難所49か所、避難者957人





避難所環境の改善（段ボールベッド等の設置）

1月10日

発災から10日が経過 災害関連死につながる危険な状況

- ・寒さ/衛生面/インフルエンザ/コロナ感染
- ⇒避難所の環境改善が必要な状況

小中学校体育館（多い避難所は200名）に段ボールベッドを一斉導入を決定

1月12日～22日

説明会開催 8か所 19時～ 説明：日赤医療

- ・雑魚寝のリスク
- ・段ボールベッドの導入により改善

1月16日～24日

- ・一斉導入実施



備蓄物資・支援物資・避難所関係

- ・想定を超えた避難者数の場合、備蓄物資が1日でなくなる

⇒正月休みで人口が1.5倍。乳幼児も多数でミルクやオムツが枯渇

⇒想定を超えた場合の想定が必要（企業との協定や自治体間の支援等）

- ・携帯不通のため自主避難所の状況把握が困難

⇒発災当初は自衛隊が孤立集落と自主避難所のニーズ調査と物資配布

- ・国のプッシュ型支援では3日目からおにぎり、パン、水が大量に届く

⇒届いた日or翌日が消費期限

⇒支援物資では3食をまかなえない状況が続く

- ・感染症が蔓延した場合の隔離場所の確保

⇒教室、自家用車、一時帰宅等



- ・避難者数がある程度減らないと段ボールベッドが設置できない

⇒衛生面の改善（清掃、消毒、土足厳禁）

能登半島地震を経験して

① 「公助」には**限界**がある

大規模災害時は市役所、職員も被災する

最低3日間は、市役所の支援がないこと前提に備えを行う

② 「**地域**のつながり」が命を救う

安否確認、避難誘導、倒壊家屋からの救出、支援物資の配布、見守り活動など地域で地域を守る

③ 「**水**」と「**トイレ**」の確保を

被災者が最も困ったことは、水とトイレであった

飲料水とトイレ（凝固剤入りトイレ袋など）の備蓄は必須です

④ 「**セカンドベスト**」を考える

最善が無理なら次善。避難行動の壁を低くする



避難所とは

避難所は、ホテルではなく「みんなで作る共同生活の場」
可能な範囲で、避難所の作業に参加！

□無理のない範囲で、「出来ること」から避難所運営に参加する

□一部の人に、負担を押し付けない

避難所の仕事（例）

運営、食料や物資の調達、食事づくり、避難所に到着した物資の積み下ろしや管理、配布、トイレ掃除、居住スペースの掃除、防犯の見回り、困っている人を助ける（子どもの見守り、話を聞く）など



避難所を運営する

～住民が主体となり運営する～



★避難所運営のための組織

避難所で多くの人々が**共同生活**するためには、避難所の**運営を担う組織**が必要になります。避難所を開設した直後は、避難者自身が作る運営組織での運営を行います。行政職員や施設の職員、災害ボランティアが協力者として携わることもあります。避難所を運営していくためには、様々な仕事の内容に応じて**班を設け、効率よく運営**することが大切です。

★避難所のルール

避難所では多くの人が共同生活を送るため、様々なトラブルが起きることがあります。そこで、**避難所のルール**を避難者自身で定めて、見やすいところに**掲示**したり、避難者に配布して、互いにルールを守って生活することが大切です。



★生活の配慮

避難所での生活は、通常的生活より不便になります。少しでも**快適な生活を送るための配慮**が必要です。



避難所運営のための班づくり



総務班	1 災害対策本部との調整 3 防災資機材や備蓄品の確保 5 避難所運営委員会の事務局	2 避難所レイアウトの設定・変更 4 避難所の記録 6 地域との連携
被災者管理班	1 避難者名簿の作成、管理 3 取材への対応	2 安否確認等問い合わせへの対応 4 郵便物・宅配便等の取次ぎ
情報広報班	1 情報収集	2 情報発信 3 情報伝達
施設管理班	1 避難所の安全確認と危険箇所への対応	2 防火・防犯
食料・物資班	1 食料・物資の調達 4 食料の管理・配布	2 炊き出し 3 食料・物資の受け入れ 5 物資の管理・配布
救護班	1 近隣の救護所や医療機関の仮説状況の把握 2 避難所内の医務室の運営 4 避難所内の病人・けが人、災害時要援護者の把握 5 健康に関する相談所の開設	3 医薬品の調達・管理
衛生班	1 ゴミに関すること 3 トイレに関すること 5 衛生管理に関すること 7 生活用水に関すること	2 風呂に関すること 4 掃除に関すること 6 ペットに関すること
ボランティア班	1 ボランティアの受け入れ	2 ボランティアの管理

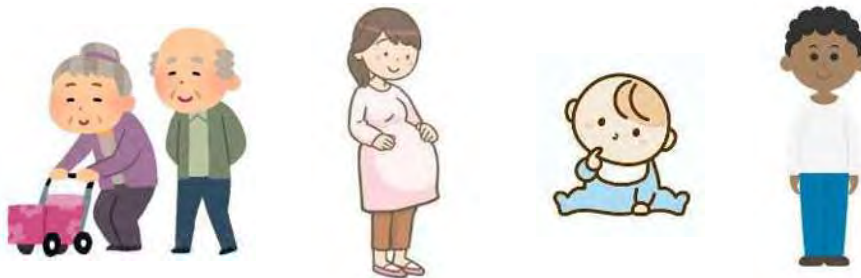
避難所の課題



- ・トイレの問題
(数・距離・段差・和式・利用限度) ⇒バリアフリーでない
- ・食べ物の問題 (偏食・量・食感・温度)
- ・口内の問題 (飲み水・清潔・咀嚼)
- ・温度の問題 (寒い・暑い・洋服)
- ・運動の問題 (動けない・することがない)
- ・自分だけ特別に必要なもの、
(物資として届かない・専門家の対応できず)
- ・薬 (おくすり手帳がない・通院できない)
- ・衛生の問題
(トイレ・手洗い・うがい・入浴・清掃・消毒)
- ・環境 (生活水・電気・就寝場所・人間関係)



要配慮者 (災害時要援護者)



避難行動要支援者



自宅で生活している人たちのうち、
自力避難が困難で、避難する際に、特
に支援を要する人

※施設入所者や入院患者等は含まれません。

台湾地震での避難所



静脈血栓塞栓症 (エコノミークラス症候群)

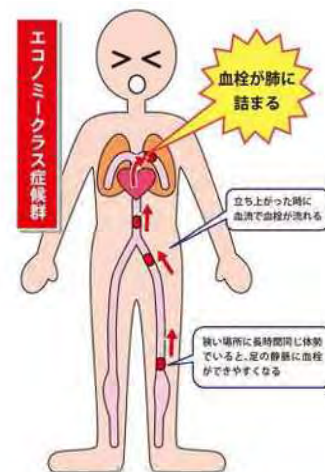
【発症原因】

長時間、足を動かさず同じ姿勢でいることで、太ももの奥にある静脈に血のかたまりができてしまうことがあり、この血のかたまりが、歩行などで体を動かし始めた時に血流にのって肺に流れ、肺の血管を詰まらせてしまうことがあるのです。

【予 防】

※日頃よりも多めに水分摂取を行う。

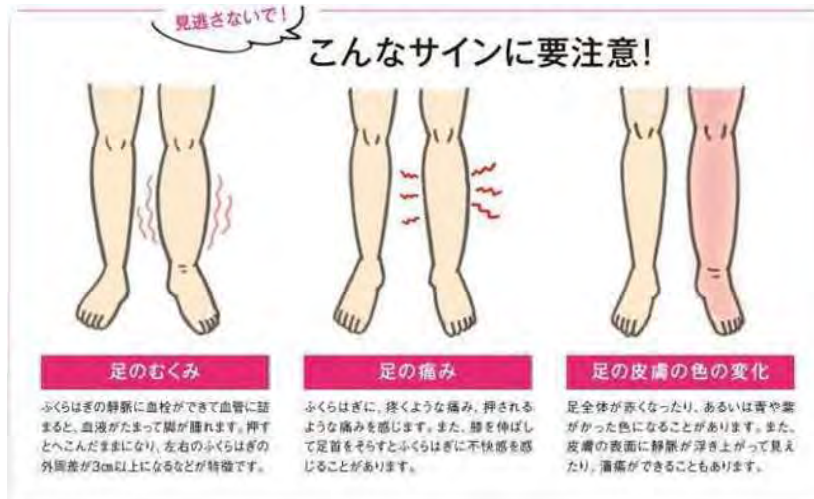
- ・避難所生活ではトイレの回数を減らそうと、水分を控える傾向がある。
- ・車中泊では低い姿勢であるため更にリスクが高まる。



【症状】



下肢が**赤くなる**、**腫れる**、**痛み**があるなど
胸痛、呼吸困難、時には心肺停止



静脈血栓塞栓症の予防法 (エコノミークラス症候群)

【予防のために心掛けると良いこと】

- (1) ときどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- (2) 十分にこまめに水分を取る
- (3) アルコールを控える。できれば禁煙する
- (4) ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
- (5) かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする
- (6) 眠るときは足をあげる
- (7) 弾カストッキングを履く (70歳以上の方はリスクが高くなる)

予防のための足の運動



避難所について考える
これからの時間は、個人で考えましょう。



避難所に関する写真を見て考えましょう？

①どのような状況なのか

②改善策はどうすればいいのか

まずは、この場所に寝てみましょう！



(1) 避難所

- ・雑魚寝
- ・固い床で寝ているため、疲労、体調に影響が出る





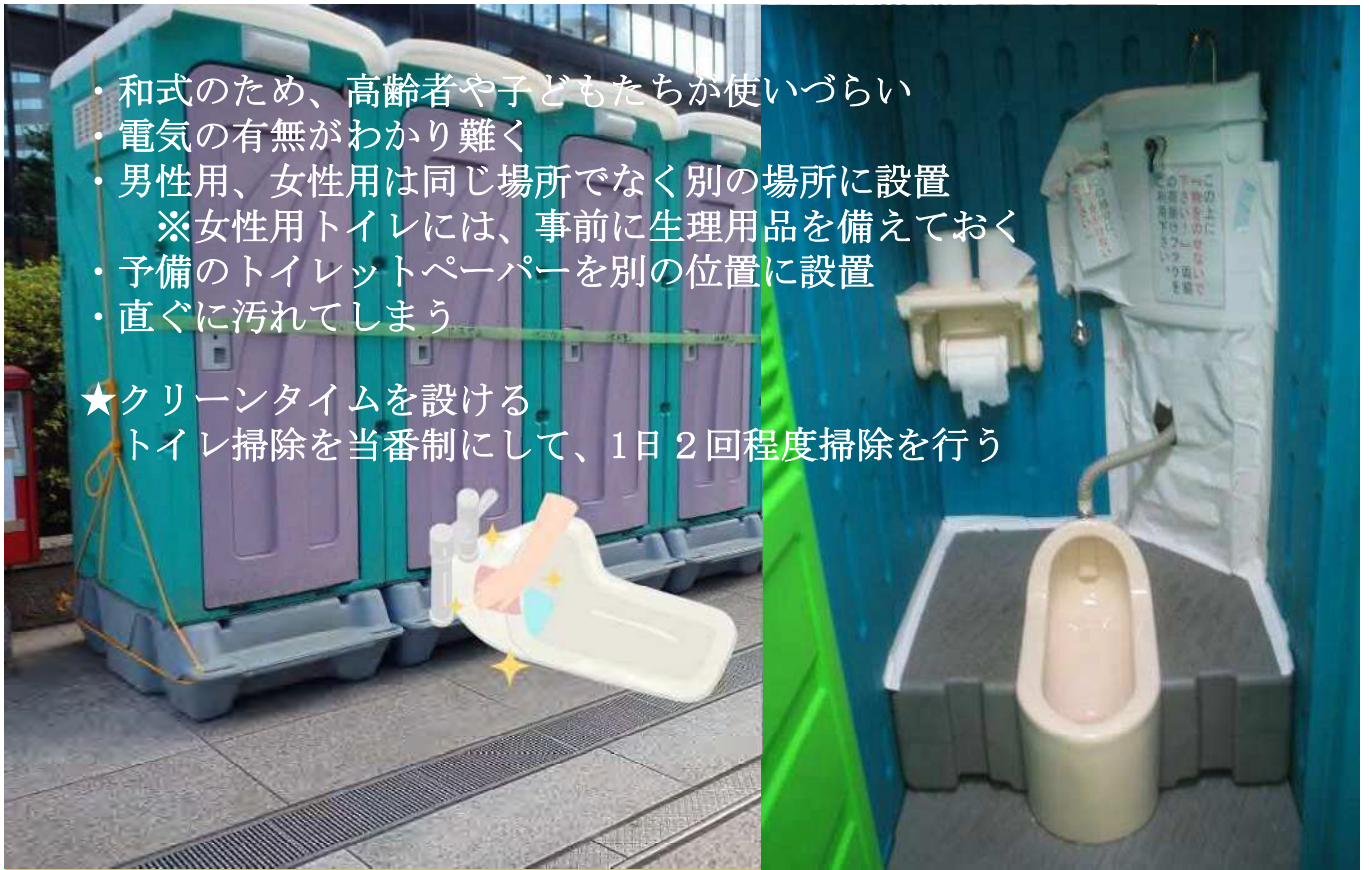
(2) お風呂

- ・ 段差が高く、高齢者などは湯船に入りづらい
(手すりが必要)
- ・ 多くの方が入浴するため、お湯が汚い
- ・ 床が滑りやすい
- ・ 入浴時間を設ける必要がある (特に女性は、洗髪に時間を要す)

★入浴日を設け、浴槽に手すり等を設ける



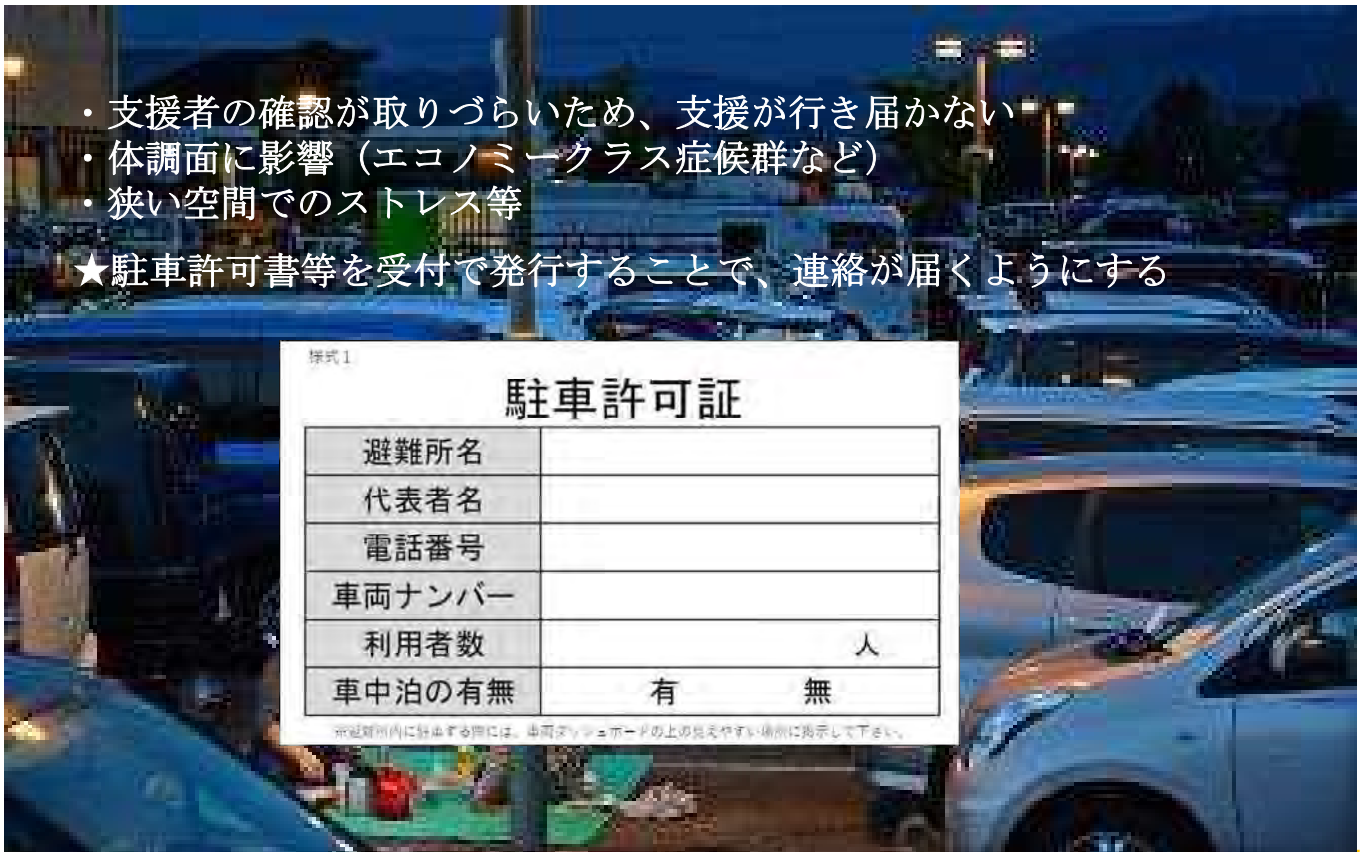
(3) 仮設トイレ



- ・和式のため、高齢者や子どもたちが使いづらい
- ・電気の有無がわかり難く
- ・男性用、女性用は同じ場所でなく別の場所に設置
 - ※女性用トイレには、事前に生理用品を備えておく
- ・予備のトイレットペーパーを別の位置に設置
- ・直ぐに汚れてしまう

★クリーンタイムを設ける
トイレ掃除を当番制にして、1日2回程度掃除を行う

(4) 駐車場で車中泊



- ・支援者の確認が取りづらいため、支援が行き届かない
 - ・体調面に影響（エコノミークラス症候群など）
 - ・狭い空間でのストレス等
- ★駐車許可書等を受付で発行することで、連絡が届くようにする

様式1

駐車許可証	
避難所名	
代表者名	
電話番号	
車両ナンバー	
利用者数	人
車中泊の有無	有 無

※避難所内に駐車する際には、車両ナンバーボードの上の見やすい場所に掲示して下さい。

公民館（避難所）

公民館 平面図



- () ①車いすの高齢者(介助必要)
- () ②ペット(猫)同伴の女性
- () ③妊娠38週の妊婦さん
- () ④研修中の外国人(英会話可)
- () ⑤37.5度の発熱している女性
- () ⑥旅行中の青年
- () ⑦夫が行方不明になった家族
- () ⑧体の不自由な高齢者夫婦
- () ⑨腰を痛がる男性
- () ⑩耳の遠い高齢者夫婦
- () ⑪咳を頻繁に繰り返す男性
- () ⑫テントを持参している夫婦
- () ⑬車で避難してきた親子(車中泊を希望)
- () ⑭生後3か月で授乳中の家族
- () ⑮腹痛を訴える中年男性

避難者想定 VOL.1

避難想定: 大型台風接近



- () ①⑥偏頭痛の持病がある女性
- () ①⑦5人の子供がいる夫婦
- () ①⑧地元の大学に通う男子大学生
- () ①⑨非常持ち出し袋を持参した4人家族
- () ②⑩福岡に帰る途中のトラック運転手
- () ②⑪透析患者の男性
- () ②⑫新婚の夫婦
- () ②⑬犬用ケージ持参の家族
- () ②⑭飲酒し声の大きい男性
- () ②⑮腕から刺青が見える青年
- () ②⑯認知症で目を離すと徘徊する男性(妻と避難)
- () ②⑰テレビ局が取材させて欲しいと来た
- () ②⑱咳、鼻水、上気道炎の痛みがある男性
- () ②⑲避難中に転んで足を負傷した高齢者の女性
- () ③⑰高齢者夫婦



マスコミ報道 (TBS Nスタ)





避難所開設・運営の基本方針とレイアウト

命を守り、希望を見い出す拠点となるように
次のような避難所づくりを目指しましょう！

○避難所は住民相互による開設・運営を目指します。

発災直後には、住民自治による迅速な取組が重要となることから、避難所は原則として、住民の自主運営とします。

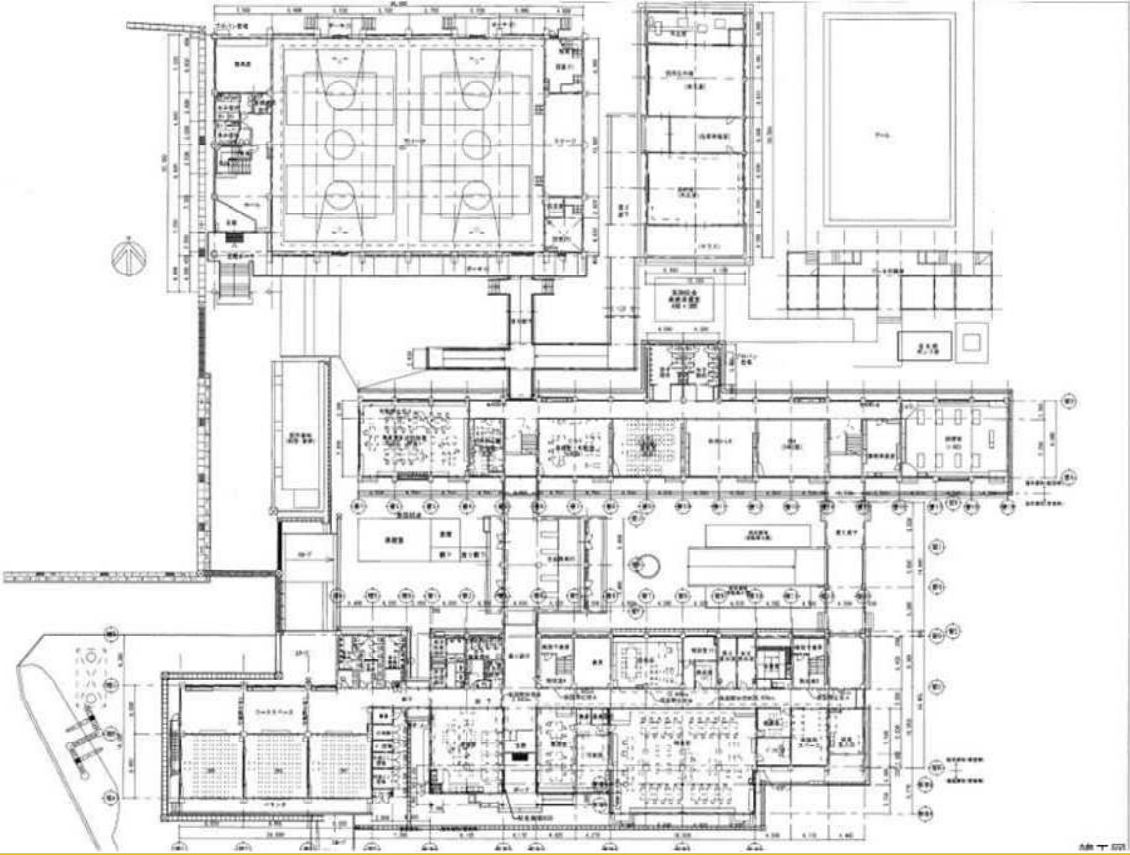
○避難所は被災者が暮らす場所と考え、自立支援、コミュニティ支援の場として取組めます。

「命と暮らしを守る視点」を避難者同士が共有して関連死の予防、それぞれの自立に向けた取組を行います。

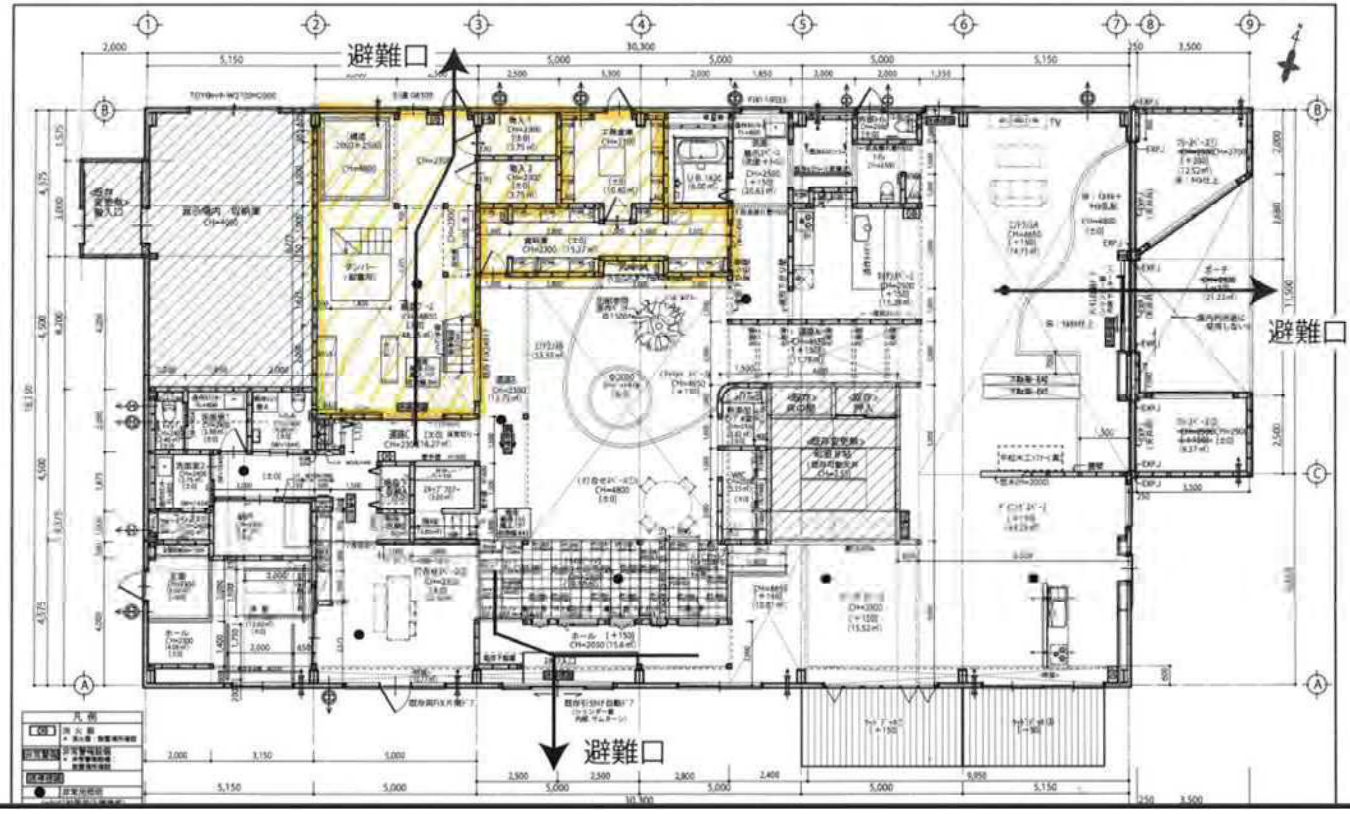
○要援護者にも優しい避難所づくり、男女共同参画の視点に配慮した避難所づくりに取組めます。

避難所のレイアウトやトイレの使用を考え、女性の視点に配慮した避難所運営を行います。

多久市体育館

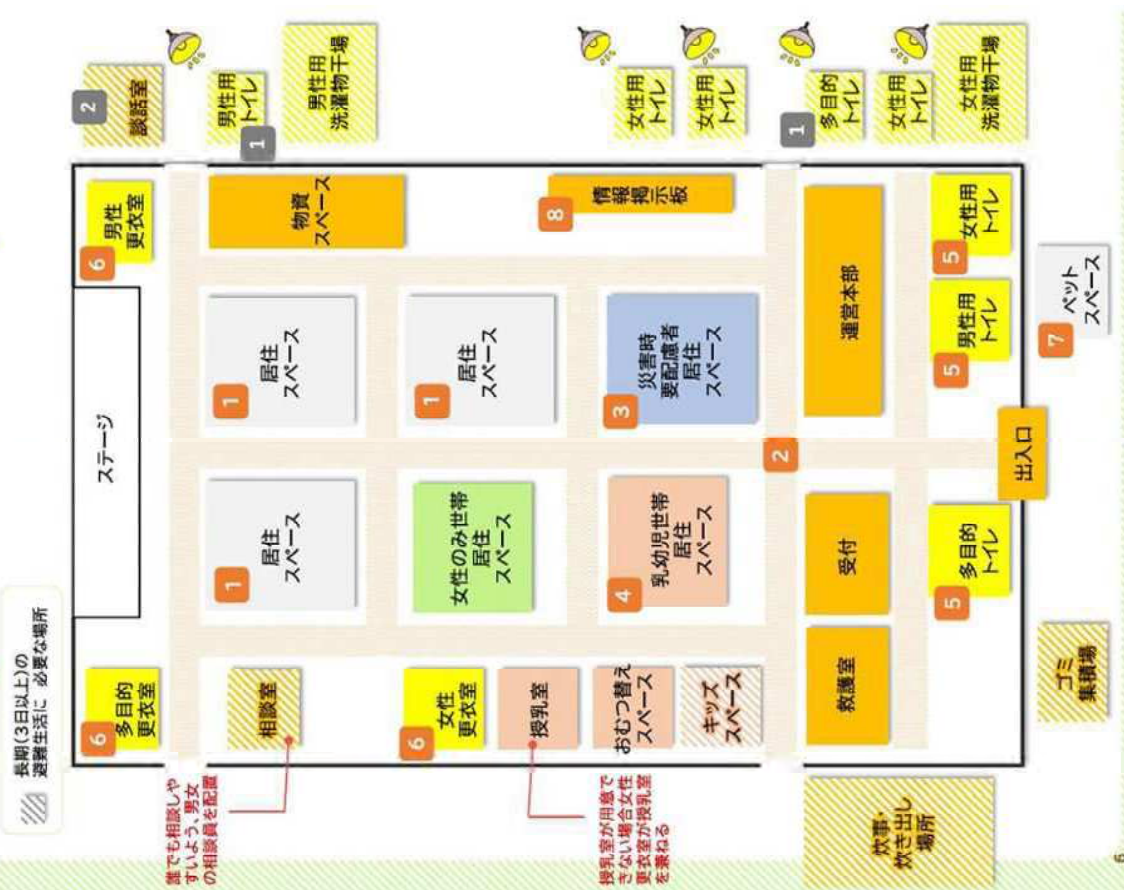


プレースホーム体験館



避難所レイアウト例

体育館など広い空間の場合



安心・安全な快適なスペースを確保

①居住スペース

世帯ごとに場所を確保する
感染予防のため世帯と世帯の間は1m以上離しておく（国推奨）

③災害時要配慮者居住スペース

高齢者、病気や障害を持つ人、妊婦などが使用する

⑤トイレ（男性、女性、多目的）

トイレまでの通りは明るく通りやすく
毎日の清掃などは交代で行う

⑦ペットスペース

衛生面やアレルギー等の理由から屋外へ設置
盲導犬や介助犬は個室のスペースで生活

②通路

余裕のあるすれ違いや車いすでの通行に備え、可能な限り幅を1m以上確保する

④乳幼児世帯居住スペース

授乳や夜泣きなどに備え他の居住スペースと離すとお互い快適

⑥更衣室（男性、女性、多目的）

防犯ブザーを設置し、性犯罪を防止。多目的は一人で着替えたい人や異性の着替えを介助するとき使用

⑧情報掲示板

誰もが見やすい場所へ設置
短く、簡単に絵などを入れる！

避難所で性暴力を許さないために

年齢、性別を問わず、誰もが被災者になる可能性があります

- 実態を知り性暴力を発生させない・許さない環境作り
- 一人ひとりが、身を守るための知識を持ち、行動する
- 性暴力についての相談窓口を知っておこう

(過去の被害実態)

身体的な暴力、痴漢行為、同意のない性行為の強要、言葉の暴力などが自宅や避難所、路上で発生。

特に、わいせつ行為や性交の強要と言った犯罪が避難所で発生！

性暴力を発生させない環境づくり

最低限、男女別に用意

- ・トイレ・更衣室・洗濯物干し場
- ・風呂やシャワー室

寝る場所を安全に

- ・居住スペースに間仕切りを置きプライバシー空間を確保する
- ・「女性のための世帯用の居住エリア」を用意

授乳室

- ・外から見えない場所で、夜間でも安全に利用できるように乳児世帯に設置

トイレを安全に

- ・人目がある場所で夜でも明るく
- ・施錠できるトイレ

子どもを守る

- ・キッズスペースを設ける
- ・子どもだけにならないよう見守るようにする

その他

相談できる体制づくり

- ポスターで注意喚起
- 男女一緒に見回り等

避難所で犯罪から身を守るための行動

- (特に女性や子ども) 防犯ブザーを持ち歩く
- 人の目が届かないところ (トイレなど) 一人では行かない
- 貴重品は常に身に付けておく (ポシェットなど)

誰もが過ごしやすい避難所に

要配慮者が過ごしやすいところは、みんなも過ごしやすい

避難所では様々な人と共同生活を行います。プライバシーや衛生面で不自由なこともあります。避難所でのルールやマナーを守り、みんなで協力し、過ごしやすい空間にして行きましょう。

生活の時間

- ・起床時間 ・消灯時間
- ・食事（朝・昼・夕）

食料、日用品の配布

- ・食物アレルギーを持つ人は自分で確認
- ・受取る量や順番は公平に決める

ペット

- ・飼い主が責任を持って管理する（鳴き声や抜け毛の対策など）

清掃・衛生

- ・居住スペースは各世帯で清掃
- ・共用部分は輪番制で清掃
- ・ごみの分別 ・手洗い、うがい
- ・定期的な換気

施設の利用

- ・居住スペースは土足禁止
- ・喫煙、通話、来訪者との面会は所定の場所で行う
- ・居住スペースでのテレビ、ラジオはイヤホンを使用

これからの作業

【避難所設営】

- ・ベッド、テント等の準備

【運営スタッフ】

- ・班編成（班長、副班長、班員）
- ・自己紹介
- ・班の業務内容と場所決め

【模擬避難者】

- ・避難者役の方は、役になりきって下さい

※必要な物

- ・マニュアル・体育館シューズ
 - ・訓練に向けて何が必要か考える
（例）ハザードマップ、マジック、用紙
- スタッフは**ビブス**を着用して下さい。



避難所開設準備



準備

段ボールベッド組立て



避難者受入れ準備



掲示物



避難者受付



避難所開設

場所への案内



避難者の要望への対応



授乳室への案内



薬を忘れた



物資配給



市長講評



スタッフ全員で記念撮影





震度6強の揺れが数分間続いた。
震災後2カ月で復旧（完全復興までには1年半の時間を要した）

工場長自らが全従業員（1,307名）に避難するように**業務命令！**という厳しい言葉を発して裏山にある日和山公園へ避難させた。
⇒犠牲者が出ずに工場も復旧した。

日和山幼稚園バス 津波の悲劇



「園庭に避難した子どもたちが不安がったり寒がったりしたので、親御さんの元に早く帰そうとした」とバスを動かした理由を語った。【園長談話】

一時気を失っていた運転手は無事幼稚園に戻り被災場所等を園長に報告したが救助活動は行われなかった。被災場所は津波から約10時間後に火災で焼く尽くされることになるが、夜中まで子供たちの助けを求める声が聞こえていたという。しかし園児の親たちにはバスの所在は知らされなかった。バスは瓦礫に埋もれ焼けただけで発見された。

地震直後、亡くなった5人を含む12人を乗せワゴン車が園を出た。門脇町や南浜町方面に住む7人を門脇小で降ろした後、大津波警報に気づき園に引き返す途中、津波に巻き込まれた。

命を守る 3つの約束



① (朝) ご飯を食べる



②寝る前に服を準備
(明日着る服を決めておく)



③靴をそろえる

東日本大震災 四周年追悼式 (平成27年3月11日)





避難所を円滑に運営するために

1. 避難所は、**住民が自ら運営する生活の場**である
コミュニティの構築
⇒多くの方が利用するため、トラブルが発生しやすい
2. 女性の意見を多く取り入れる **女性** > 男性
3. 女性は一人で行動をしない
4. 避難所内での情報を共有する
5. 感染対策や衛生管理を徹底する
※感染対策を防ぎ、トイレ等の衛生管理を行う